

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報 8

野菜の作業

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント																																															
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・シュンギク ・ハクサイ ・ダイコン ・カブ ・ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリー ・キャベツ ・ワケギ ・レタス など 	<p>○夏野菜の暑さ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷きワラ、こまめな灌水などで土壌水分の急激な変化をさげましょう。 ・追肥を行い樹勢を維持します。 ・雨よけハウスなどでは、天井フィルムの上の遮光ネットや寒冷紗をかけて温度をさげます。(ただし、遮光率は20%以下とします。) 																																															
<p>など</p> <p>秋バレイショの植付けは、標高500mの地帯で8月下旬になります。品種は、休眠の浅いデジマやニシユタカを利用します</p> 	<p>収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・スイカ ・メロン ・スイートコーン ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・ユウガオ ・カボチャ ・オクラ など多数! 	<p>○主な秋まき野菜の作型と品種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>播種期</th> <th>定植期</th> <th>主な品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハクサイ</td> <td>8月中旬まで</td> <td>9月中旬まで</td> <td>黄ごころ65</td> </tr> <tr> <td>キャベツ</td> <td>7月下旬まで</td> <td>8月中旬まで</td> <td>若峰、初秋</td> </tr> <tr> <td>ブロッコリー</td> <td>7月中旬まで</td> <td>8月上旬まで</td> <td>ピクセル</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>8月中旬まで</td> <td>9月上旬まで</td> <td>極早生シスコ</td> </tr> <tr> <td>チンゲンサイ</td> <td>9月上旬まで</td> <td>9月下旬まで</td> <td>青帝</td> </tr> <tr> <td>ホウレンソウ</td> <td>9月中旬まで</td> <td></td> <td>オーライ・ヨロシ</td> </tr> <tr> <td>コマツナ</td> <td>9月中旬まで</td> <td></td> <td>楽天</td> </tr> <tr> <td>ダイコン</td> <td>8月下旬まで</td> <td></td> <td>耐病総太り, YRくらま</td> </tr> <tr> <td>カブ</td> <td>8月下旬まで</td> <td></td> <td>耐病ひかり</td> </tr> <tr> <td>タマネギ</td> <td>9月上旬まで</td> <td></td> <td>OK黄、泉州黄色</td> </tr> </tbody> </table> <p>ホウレンソウ、コマツナはトンネル、ハウス利用で更に遅まきできる。</p>				種類	播種期	定植期	主な品種	ハクサイ	8月中旬まで	9月中旬まで	黄ごころ65	キャベツ	7月下旬まで	8月中旬まで	若峰、初秋	ブロッコリー	7月中旬まで	8月上旬まで	ピクセル	レタス	8月中旬まで	9月上旬まで	極早生シスコ	チンゲンサイ	9月上旬まで	9月下旬まで	青帝	ホウレンソウ	9月中旬まで		オーライ・ヨロシ	コマツナ	9月中旬まで		楽天	ダイコン	8月下旬まで		耐病総太り, YRくらま	カブ	8月下旬まで		耐病ひかり	タマネギ	9月上旬まで		OK黄、泉州黄色
種類	播種期	定植期	主な品種																																														
ハクサイ	8月中旬まで	9月中旬まで	黄ごころ65																																														
キャベツ	7月下旬まで	8月中旬まで	若峰、初秋																																														
ブロッコリー	7月中旬まで	8月上旬まで	ピクセル																																														
レタス	8月中旬まで	9月上旬まで	極早生シスコ																																														
チンゲンサイ	9月上旬まで	9月下旬まで	青帝																																														
ホウレンソウ	9月中旬まで		オーライ・ヨロシ																																														
コマツナ	9月中旬まで		楽天																																														
ダイコン	8月下旬まで		耐病総太り, YRくらま																																														
カブ	8月下旬まで		耐病ひかり																																														
タマネギ	9月上旬まで		OK黄、泉州黄色																																														

白いきれいな肌のダイコンを作るために

ダイコンは日本食にとってなくてはならない野菜であり、直売所でもベースとなる野菜のひとつです。

そんな中、長年ダイコンを作っているが、なかなか「白いきれいな肌のダイコン」ができないが・・・というお話を聞きます。

症状により様々な原因は考えられますが、幾つかの原因が複雑に絡み合っている場合が多く、輪作や幾つかの対策を併用することが大切です。

症状のひとつ「横しま症」は、主根の表面に条状または帯状に褐色または黒色の変色を水平方向に生じる症状の総称で、軽く擦るとときえる軽微なものから変色の著しいものまで幅があり発症は地下部に限定されます。対策としては、連作を避け深耕や良質堆肥の施用などによる土づくり、湿害防止のための高うね栽培がポイントとなります。

次に「曲根」ですが、地上部と地下部曲根の2種類がありますが、主な

原因は土壌の不良、特に硬い耕盤層であることが多く、深耕や良質堆肥の施用などによる土壌改良や適期の間引きによる正常葉の株を揃える等の管理がポイントとなります。

また、裂根は直根割、茎割、肩割、中割に分けられ、初期成育の不良による根部の組織老化が原因で間引きや適期のかん水により肥大初期の生育を安定させるような管理が大切となります。

岐根は、センチュウや害虫による幼根期の食害、石や土塊障害に



よる側根の発生、堆肥や化学肥料の塊状施肥、幼食物期の中耕などの管理作業による断根などが原因であり、殺センチュウ剤・殺虫剤の使用、深耕や入念な砕土、肥料等の均一散布、中耕除草時の断根回避などが重要です。

なお、センチュウの中のキタネグサレセンチュウによる根部表面の被害は、生育中期～収穫期にかけ水泡状の小白斑(径は数ミリ)が発生し、その中心が割れ黒く変色するためアバタ状になるもので品質を著しく落とします。

これに対しては、センチュウ密度を下げる必要があります。堆肥の施用不足も多発の原因とされていますが、野菜類の連作で密度が高まることから、マリーゴールドなどの対抗植物の栽培や必要に応じて土壤消毒を行ないます。

まだ他にも様々な症状の障害等が見られますが、土壤の深耕、良質堆肥の施用、過剰施肥の回避、排水対策、輪作・適期の管理作業など、総合的に生育環境を整えることにより「白いきれいな肌のダイコン」づくりに努めていただきたいと思います。



農業豆知識

農薬による防除と薬剤の選び方

農薬の種類は、病気を予防したり病原菌を殺す「殺菌剤」と、害虫を殺す「殺虫剤」があります。病虫害の被害を発見したら、まず病気か害虫の被害を判断します。この判断が間違っていると病気なのに殺虫剤を散布したりその逆もあります。まず病気か害虫かを見定めて正しく農薬を選ぶことが大切です。

殺菌剤は、病原菌が植物に寄生して活動する前に、予防的に使う保護殺菌剤と治療的な直接殺菌剤があります。通常は予防的な殺菌剤が多く使われ病気の発生初期に散布しなければ十分な効果の出ない場合があります。

殺虫剤は薬剤がついた茎葉などを害虫が食べて死ぬ剤と体につくと中毒死する接触剤、浸透性剤などがあるので害虫の種類によって薬剤を選ぶ必要があります。

農薬使用の基礎知識

野菜に寄生する病原菌は、主にウイルス、細菌(バクテリア)、糸状菌(かび)の3種類に代表されます。

ウイルスは主にアブラムシによって伝播され一旦体内にウイルスが入ると防除の方法がありません。ウイルスは植物体が幼少のときほど感染すると被害が大きいため、ウイルス病の防除はアブラムシの発生初期に薬剤防除を行うとともに、寒冷沙でトンネルをするか銀白色のフィルムマルチをしてアブラムシの寄生を防ぐことが大切です。

細菌による病害は、主に軟腐病やかいよう病など腐敗性の病害です。この菌による病害の種類は多くありませんが、被害は甚大になります。適する農薬には銅剤や抗生物質があります。この病害は栽培時期や畑の環境が発生を大きくするので、高温期の栽培では、適期栽培に心がけることが大切です。

糸状菌(かび)は野菜の病害の大半を占める病原菌ですので、それぞれの病害に対して適期防除を心がけてください。

次に害虫ですが、野菜を食害する害虫は数千種類に及びますが、主にチョウ・ガ類・アブラムシ類・ダニ類・アザミウマ類に分類されます。

チョウ・ガ類ではヨトウムシ、アオムシ、ハスモンヨトウなどで害虫は被害を与えませんが、幼虫が葉菜類の葉茎を食い荒らして放任すると被害が拡大します。

アブラムシ類は農作物の害虫だけで数十種もいるといわれており、多くの野菜に寄生して汁液を吸うので草勢が弱まりウイルスを媒介します。

ダニ類は葉裏に寄生し汁液をしハダニだけでも百種類以上存在します。

アザミウマ類はスリップスとも呼ばれ幼虫が野菜の葉裏や新芽に寄生して汁液を吸収し成長すると地面に潜んでさなぎになり、3～4日で再び成虫となり加害します。